

Introduction

軟式庭球場南側の樹木伐採から見たもの

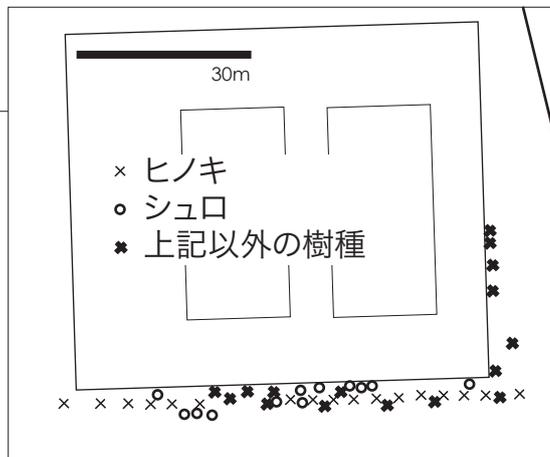
この8月中に、軟式テニスコートの南および東側の樹木が伐採されました。鳥類などの生物の足場が一つ失われたことは惜しむべきものがありますが、本校の環境整備の一環としては避けて通れないものかも知れません。

その切り株を眺めてみると面白いこと気づきます。一つは、外目には気づきにくいですが、ヒノキが整然と列を為して植林されていたこと。そのヒノキの樹齢が30年を超えている一方で、樹木景観の中心的役割を担っていたエノキやアカメガシワ、センダンなどの樹種の樹齢はせいぜい13-18年程度しかない、ということです。本校に長く勤務されている先生方やOBの方々にとっては当たり前の変化であっても、年輪を見ることで、景観の変化に思いを馳せることができます。年輪から再構築できる景観の変化は次のようなものです。

おそらく、20年近く前は軟式テニスコートのフェンス南面にヒノキが防風林のように植えられているだけで、それ以外の目立った樹木はなく、下草が生えている程度だったのでしょうか。(あまり林床の手入れをしないので)15年ほど前から、アカメガシワやエノキ、センダン等の稚樹が林床に見られるようになったと思われます。5年ほど前にはそれらの樹の樹高が8mを超えるようになり、林床が暗くなります(あれほど狭い場所ですが…)。そこにシュロが侵入しはじめたようです。

年輪を見ると、ヒノキなどは全体的に材が緻密(=年輪の幅が狭い)で、直径30cmほどに成長するのに30年以上かかることが見てとれますが、アカメガシワやエノキなどは、環境さえ良ければわずか10数年ほどで直径30cmに達することがわかります。

このように、年輪を見るだけでその土地の年代記をある程度は推定できます(もちろん、現実にはそれほど甘くはありません。志木高を古くから知る先生方に確認するのも良いでしょう)。



この小誌が配布される頃でもまだ、切り株は残されていることでしょう。一度、眺めてみることをお勧めします。

(Miyahashi)

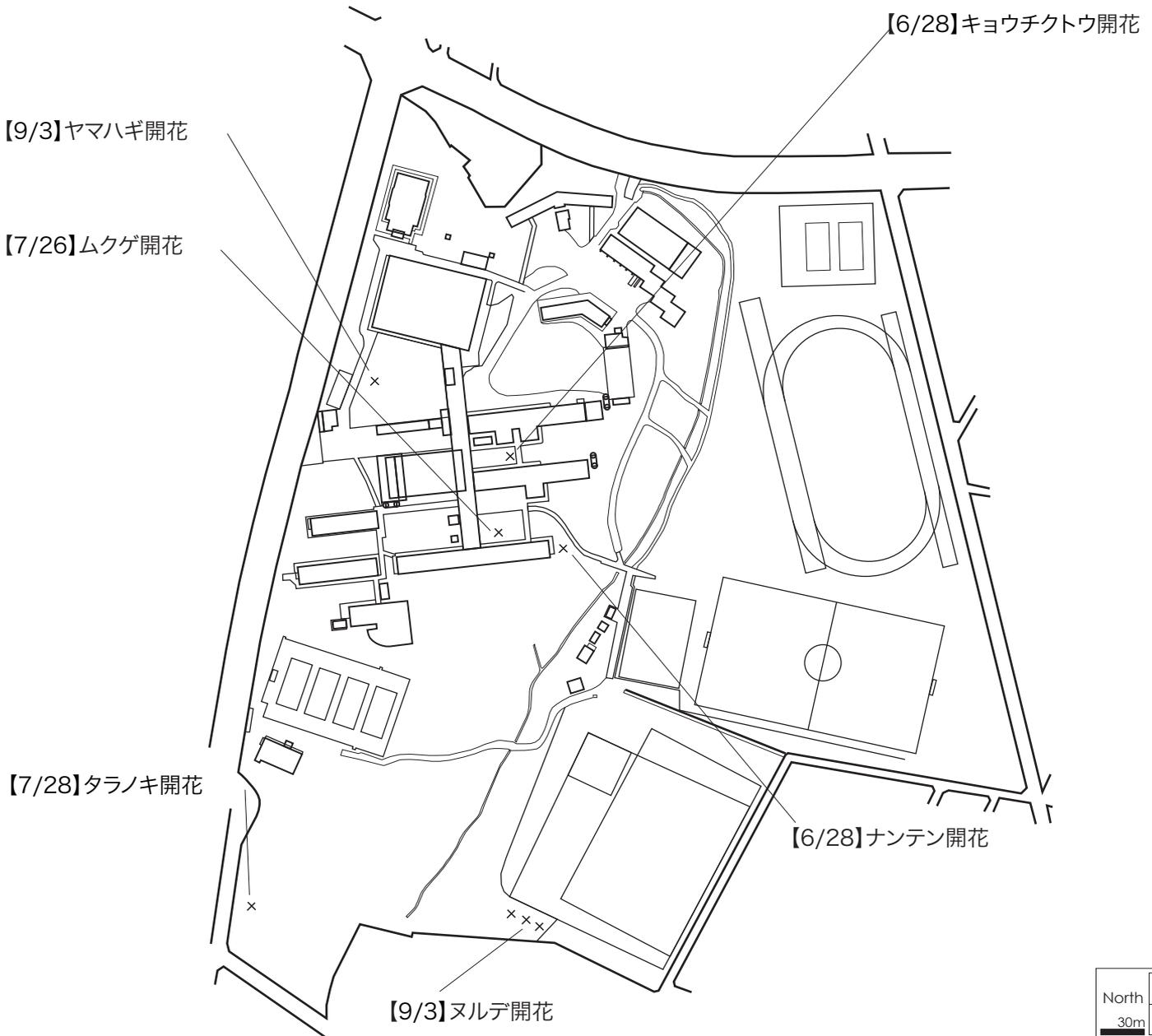
志木の自然[水無月(6月), 文月(7月), 葉月(8月), 長月(9月)]

Plants [2005年6月~2005年9月までの記録]

外来種の侵入が、少しずつ目につくようになってきている。セイバンモロコシ等去年までは校内に生えていなかった。また、いままでトキワハゼだと思っていたものの中にアメリカアゼナが紛れていることにも気づがされた。毎年、少しずつ構成種が変わっていつている。10年もすればどうなることやら。楽しみでもある。

Grass

- 28th Jun. 2005 エノコログサ, ヨウシュヤマゴボウ, ミズヒキ, チドメグサ, イシミカワ, ネジバナ, オオカナダモ, タケニグサ, ナンバンカラムシ開花.
- 18th Jul. 2005 ヘクソカズラ, ヤマノイモ, カラスウリ, セイバンモロコシ, ヒメムカシヨモギ, キツネノマゴ開花.
- 9th Aug. 2005 ミツバ, オヒシバ, ムラサキツユクサ, プタクサ, ヤブタバコ, ヒナタイノコズチ, ハエドクソウ, キクイモ開花.
- 20th Aug. 2005 ニシキソウ, アマチャヅル, カントウヨメナ, アメリカアゼナ, ママコノシリヌグイ, ツルボ, イヌホオツキ開花.
- 3rd Sep. 2005 チヂミザサ, イヌタデ, ヤブラン, ウラジロギボウシ, アオミズ, カナムグラ開花.

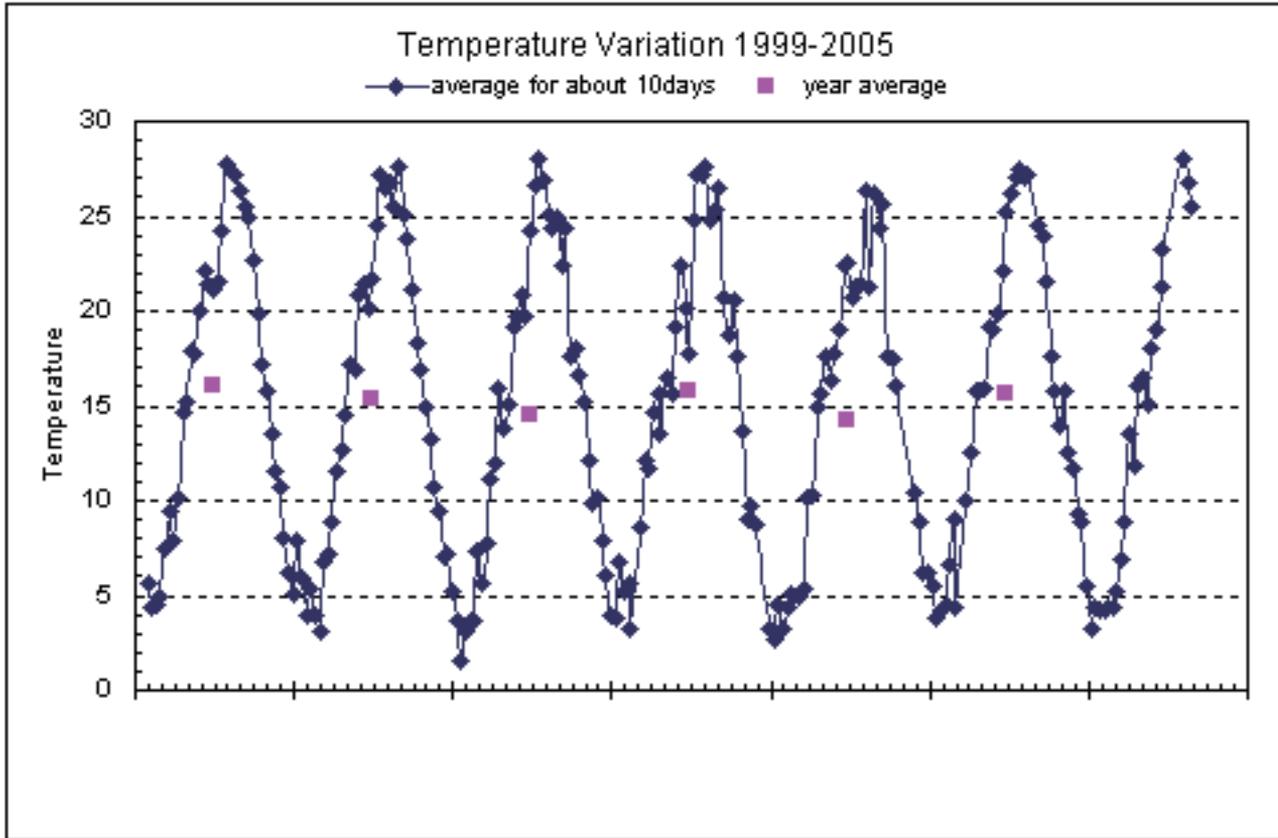


この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

(Miyahashi)

志木校における気温の季節変化(1999-2005)

志木校で気象の常時観測をはじめ6年半が経ちました。グラフはこの期間の気温の変化を示したものです。気温データは10分毎に計測されますが、ここでは月の上旬、中旬、下旬の約10日間の値を平均した旬別平均を算出しプロットしました。(ちなみに表計算とグラフはExcelを使いました。6年分のデータは20万行以上になりますが、Excelの限界!?(65536行)を超え一気に統計処理できませんでした。限界を広げる方法があったら教えてください。)四角の点は各年の平均気温で、99年16.0°C、00年15.3°C、01年14.5°C、02年15.8°C、03年14.3°C、04年15.7°C(ただし欠測日あり)、この6年間の平均気温は15.3°C(さいたま市アメダスは15.1°C)でした。このグラフは地球温暖化の話題のときにしばしば登場しますが、6年間を見る限り有意な温暖化傾向はないよう(あったら大変)です。しかしこれから10年後、100年後がどうなっているか、まったく見当もつきません。



(Higuchi)

～実習農園だより～

Biotope

今年の農園は、部活動、授業、収穫祭などたくさんの団体の参加で大盛況です。そのほとんどはこの夏に収穫されたようです。ナス、キュウリ、トマト、ジャガイモ、たくさん採れました。私も真っ赤なトマトをその場でいただきました。真夏の陽射しの下で食べるトマトはとてもみずみずしく格別でした。これも完全無農薬だからこそできることですね。ただ水稲は実らなかったようで残念でした。

お隣のビオトープはこの夏何度か雑草に覆いつくされそうになり、草刈り十字軍よろしく生物部員たちが雑草と格闘し、何とか池の水面をかるうじて明るく保ったという感じでしょうか。その甲斐あってか植栽したアサザやミクリ(これらは絶滅危惧種)が岸から水面を被い、水中にはマツモ、クロモ、エビモ、イトモ、キクモ、オモダカ(全て埼玉に昔はよく見られた在来種)が繁茂してすっかり池らしくなってきました。何より嬉しいのは正真正銘の志木産のメダカが100匹以上に殖えたことです。これは昨年、生物部が新河岸川でやっと捕獲したたった4匹(うち♀は1匹)を放流したのが殖えたのです。なんという繁殖力。これが絶滅危惧種とは、よほど世間の河川環境はひどいのでしょうか。秋にはこの殖えたメダカの一部を新河岸川に帰してあげようと考えています。皆さんもビオトープの生き物たちをこれからも温かく見守ってあげてください。

(Izawa)

この9月、日本の空を再びコウノトリが飛びます。昭和46(1971)年、日本の野生のコウノトリの定着個体は絶滅しました。その後、捕獲した個体で人工繁殖の試みが続けられ、24年という長い年月を経て平成元年(1989)、やっと雛を孵すことに成功しました。ちょうど今の高校一年生が生まれた年です。その後、数を増やし現在では119羽になりました。

9月24日、このコウノトリが兵庫県豊岡市で試験放鳥されます。豊岡では、コウノトリ絶滅の原因である農薬の大量散布をやめるなどの取り組みも行ってきました。

さて、志木高の上空をコウノトリが飛ぶ日は来るでしょうか。

【参考】コウノトリ

翼長2メートル 魚類・カエルなどを食べる。主な繁殖地はアムール川流域。ただし、渡りの途中にある日本では定着繁殖することもある。

現在の生息数は極東全域で2500羽以下と見られ、絶滅危惧種となっている。《野鳥2005年七月号》

(Hayami)



四季折々(九月の俳句)

櫻並木九月の色を連ねけり

キャンパスを押し通りをり野分風

理科室の前の小池も澄めるかな

英

今回の俳句も、本井英先生に作句をお願いしました。

「九月」はまさに九月を表す季題です。「野分(のわき)」は以前にも紹介しましたが、秋の疾風あるいは暴風のことを言います。さて、最後の句の季題は何でしょう。「小池も澄める」「水澄む」は九月の季題です。秋はことに水が清く澄んでいることからこの季節の季題とされているようです。「爽やか」「冷やか」なども九月の季題です。

解説文 文責 宮橋

執筆・担当区分	俳句	本井 英 (Motoi)
	鳥類	渡部 真也 (Watanabe)
	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)